

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度の活動報告・
令和4年度の活動の方向性

令和4年3月24日

● 協議会の現状

協議会及び分科会の構成

「新しい東北」官民連携推進協議会 (平成25年12月17日設立)

- 民間企業・大学・NPO等各種団体・地方自治体から構成（1,308団体（令和4年3月23日現在））。
- 官民の様々な主体の間で連携を生み出し、復興を契機とした新たな挑戦を促進。
- 具体的には、ウェブサイトや会員交流会の場で、各主体に関する情報（課題、ノウハウ、リソース）の共有や連携を促進。

各種課題に対応するため、協議会の下に3分科会を設置して活動

地域づくりネットワーク

(平成27年2月設立)

- 被災地の地方自治体から構成（71団体）。
- 「地域内の協力体制」や「地域内外とのネットワークの構築」、さらに個々の取組の核となる「リーダーの育成」などを図り、取組の自走化を目指すため、「地域づくりハンズオン支援事業」を行い、地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対して各種取組やニーズに応じたきめ細かな伴走型の支援を実施。

復興金融ネットワーク

(平成26年7月設立)

- 金融機関等から構成（35団体）。
- 官主導の取組による復旧から、民主導の取組による本格的な復興への橋渡しを行うため、金融機関等に対し、産業復興に関する情報の提供等を実施。
- 被災地の事業者に対して資金供給を呼び込むため、平成26年度から「新しい東北」復興ビジネスコンテストを開催。優良な取組を発掘するとともに、事業化や事業の発展に向けた効果的な支援を実施。

企業連携グループ

(平成27年4月設立)

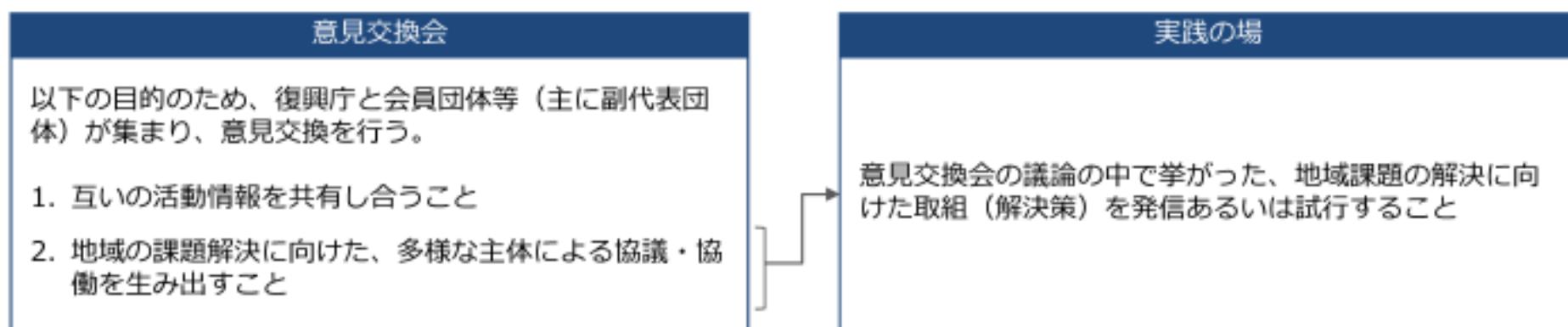
- 企業復興支援ネットワーク、専門家派遣集中支援事業、販路開拓支援チームなどの機能を集約して提供。
- 民間企業と被災自治体、被災地企業と外部企業などが連携して展開する事業への支援および事例集作成やフェイスブックによる情報発信等を実施。

● 3県での意見交換会の開催

今年度の方向性

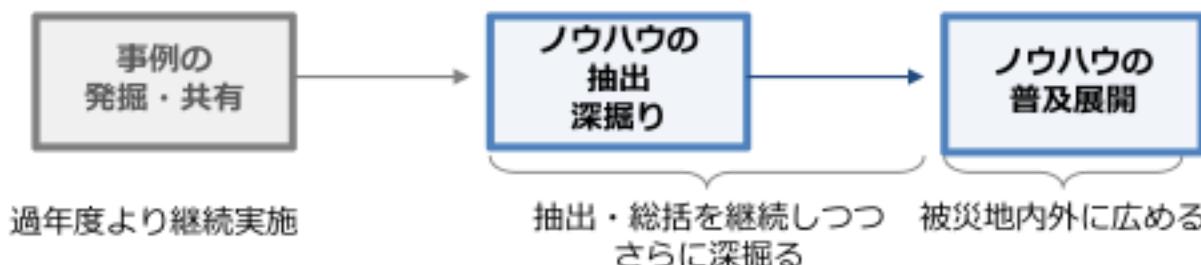
復興庁関連事業と連動し、過年度からの事例の発掘・共有を継続実施しつつ、今年度は被災地内外に向けたノウハウの普及展開に注力した。

■ 意見交換会、実践の場とは



■ 今年度の方向性

- ・協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続した
- ・被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力した
(昨年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信するよう努めた)



● 3県での意見交換会の開催

岩手県

第0.5回 (8月31日(火))	第1回 (10月4日(月))	第2回 (11月25日(木))	実践の場 (2/8(火))	第3回 (3月16日(水))
<ul style="list-style-type: none">・ 今年度の意見交換会・テーマ案の説明・ 意見交換 -今年度のテーマ、課題に挑戦している企業の選定・関りについて	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の活動紹介・ 今年度の取組テーマについて・ 課題に挑戦している企業について・ 意見交換 -今年度の取組・実践の場の方向性、課題に挑戦している企業との検討項目について	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の活動紹介・ 今年度の取組説明・ 意見交換 -年度内の目標達成方法、実践の場の開催場所について	『釜石の今と未来を考える 座談会』	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の取組紹介・ 実践の場の開催結果・ 年間の取組を通じて導出したノウハウについて・ 意見交換 -年間の振り返り・得られたノウハウ、次年度に向けた工夫・取組テーマについて

■ 実践の場の企画背景

【目的】

- ① 釜石をふるさとと感じてもらい、地域が活性化するための契機の創出
- ② 地域の今までの歩み、これからの発展について、地域の方から発信
- ③ 地域の発展に寄与する「ふるさと」への関りについて、関係者でアイデアを出し合う

【ターゲット】

- ・ 釜石に今まで関りのあった方々
- ・ 釜石で活動される方々

■ 実践の場の開催概要

『釜石の今と未来を考える 座談会』

日時 令和4年2月8日(火) 13:00～15:00

場所 釜石市(釜石市民ホールTETTO ギャラリー) + オンライン

第1部 講演パート

※オンラインでリアルタイム配信

「釜石市のパートナーシップによるまちづくりについて」

- 釜石市総務企画部総合政策課オープンシティ推進室長 金野尚史 氏 (オンライン登壇)
「ふるさと」釜石の今と未来のありたい姿
- (株)青紀土木 代表取締役社長 青木健一 氏
- (有)宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎昭子 氏
- (一社)根浜MIND 監事 佐々木雄治 氏
- (一社)根浜MIND コーディネーター/実践型コンサルタント 細江絵梨 氏

第2部 座談会パート

※オンライン参加者と登壇者の意見交換

釜石でのこれからの取組について

現地登壇者の4名の方々とオンライン参加の関係者による、地域の発展に寄与する「ふるさと」への関りについて意見交換



● 3県での意見交換会の開催

宮城県

第0.5回 (8月23日(月))

- ・ 今年度の意見交換会・テーマ案の説明
- ・ 意見交換
-今年度のテーマ・注力ポイント、課題に挑戦している企業の候補について

第1回 (10月6日(水))

- ・ 各団体の取組紹介
- ・ 今年度の取組テーマについて・課題に挑戦している企業の説明
- ・ 意見交換
-課題に挑戦している企業との連携・取組、実践の場の方向性について

第2回 (11月12日(金))

- ・ 今年度の取組説明
- ・ 意見交換
-教育旅行のターゲットの選定の仕方、コンテンツ、データの取得方法
- ・ 協力を得たい企業・団体
- ・ 実践の場のイメージ
- ・ 実践の場の集客方法・開催場所

実践の場 (1/27 (木))

『「学ぶ旅」と旅行者データ活用による観光振興 座談会』

第3回 (2月24日(木))

- ・ 実践の場の開催結果・年間の取組を通じて導出したノウハウについて
- ・ 次年度の協議会・意見交換会について
- ・ 意見交換
-年間の振り返り・得られたノウハウ、次年度に向けた工夫・取組テーマについて

■ 実践の場の企画背景

【目的】

① 東日本大震災の被災・復興を通じて得た経験や知見をより多くの人に伝え、日頃から備えや、いざというときの行動に生かしていただくこと、それとともに地域の魅力を伝えることを目的とした「学ぶ旅」のコンセプト・モデルツアーの発表

② 旅行者を地域全体でおもてなしするための旅行者データ活用に関するアイデアをもとに、観光産業に携わる企業・団体と地域の観光振興のアイデアを創出し、新たな連携の契機を創出

【ターゲット】

- ・ 観光産業に携わる企業・団体

■ 実践の場の開催概要

『「学ぶ旅」と旅行者データ活用による観光振興 座談会』

日時 令和4年1月27日(木) 13:00~15:00

場所 石巻市(マルホンまきあーとテラス 市民ギャラリー) + オンライン

第1部 講演パート ※オンラインでリアルタイム配信

メインスピーカー (一社)石巻圏観光推進機構 斎藤雄一郎 氏

- ・ 「学ぶ旅」コンセプト・モデルツアー紹介
- ・ 効率的・効果的なアプローチ・運営を叶えるデータ活用



第2部 座談会パート ※オンラインでリアルタイム配信

旅行者データ活用を中心とした参加者間での意見交換

「学ぶ旅」とデータ活用について、産官学の登壇者の方々から様々な側面から意見交換

- ・ (一社)石巻圏観光推進機構 斎藤雄一郎 氏
- ・ (公社)宮城県観光連盟
みやぎ教育旅行等コーディネートセンター事務局次長 三浦均 氏
- ・ (株)日本旅行古川支店 支店長 田中靖彦 氏
- ・ (独)中小企業基盤整備機構東北本部 企業支援部長 小村幸男 氏
- ・ (大)東北大学災害科学国際研究所 特任教授 西依英俊 氏

● 3県での意見交換会の開催

福島県

第0.5回 (8月30日(月))	第1回 (10月7日(木))	第2回 (11月15日(月))	実践の場 (1/29 (土))	第3回 (2月24日(木))
<ul style="list-style-type: none">・ 今年度の意見交換会・テーマ案の説明・ 意見交換 -今年度のテーマ・ゴール、コアメンバー候補について・ 福島県内魅力ある企業ではたらく若手社員に対する学生の取材記事について	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の活動紹介・ 今年度のテーマ・本件テーマに関する団体の説明・ 意見交換 -取材先企業の選定について・ 「実践の場」イメージにおける方向性について	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の活動紹介・ 今年度の取組説明・ 意見交換 -取材先候補企業の選定・ 学生の参画目的・ 取材の推進体制・ 実践の場・第3回意見交換会について	『「大学生発 福島キャリア新発見」読む会』	<ul style="list-style-type: none">・ 各団体の活動紹介・ 実践の場「読む会」の開催結果・年間の取組を通じて導出したノウハウについて・ 次年度の協議会・意見交換会について・ 意見交換 -年間の振り返り・得られたノウハウ、次年度に向けた工夫・取組テーマについて

■ 実践の場の企画背景

【目的】

- ① 地元企業への就職の魅力を発掘すべく、福島県内の人財育成において活躍されている（一社）あすびと福島を事務局とし、学生による学生向けの企業紹介記事を創刊
- ② 学生の書いた取材記事に関して、大人目線、読者目線でのレビュー、アドバイスを実施し、記事を作成する学生の成長の機会を提供

【ターゲット】

- ・ 福島の学生・若者

■ 実践の場の開催概要

『「大学生発 福島キャリア新発見」読む会』

日時 令和4年1月29日（土）13:00～15:00

場所 オンライン

福島県内魅力ある企業ではたらく若手社員に対する学生の取材記事について、次の記事作成への改善に向けた対話を学生と協議会参加者で行った。

1件目：大野農園株式会社

（記事URL: https://note.com/fukushima_career/n/n5cae08cfecd1）

- ・ 取材先：営業部門 塚原健太 氏
- ・ 記事作成者：福島県立医科大学1年 中里香奈 さん



2件目：株式会社ふたば

（記事URL: https://note.com/fukushima_career/n/n1bce376ebb55）

- ・ 取材先：穂積香奈 氏
- ・ 記事作成者：東北学院大学 教養学部地域構想学科 1年 沖沢優希子 さん
- ・ 記事作成者：福島大学 人文社会学群行政政策学類 2年 安藤禎基 さん

● 令和3年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰

概要

- 平成28年度から「新しい東北」の創造に向けた取り組みについて大きな貢献をされている個人・団体を顕彰する「新しい東北」復興・創生顕彰を実施。
- 令和3年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰では、令和2年8月から令和3年7月までの1年間に活動し、被災地の地域課題を解決する取組を行っている88件の推薦の取り組みから、外部有識者による選定委員会を経て11件を選定。
- 令和4年3月13日に仙台市にて顕彰式を開催。
- また、令和2年度受賞者の取組についてフォローアップを行い、「新しい東北」ポータルサイト上に記事を掲載するとともに、事例集を作成・配布。

<令和3年度募集結果（令和3年6月10日～7月31日）>
・応募件数 88件

<選定結果：受賞者一覧（11件）>

岩手県大船渡市	株式会社キャッセン大船渡
岩手県大船渡市	特定非営利活動法人おはなしこりん
岩手県陸前高田市	認定特定非営利活動法人桜ライン311
宮城県気仙沼市	一般社団法人まるオフィス
宮城県気仙沼市	株式会社インディゴ気仙沼
宮城県石巻市	株式会社巻組
宮城県亘理郡山元町	株式会社やまもとファームみらい野
福島県双葉郡富岡町	一般社団法人双葉郡未来会議
福島県双葉郡葛尾村	かつらお胡蝶蘭合同会社
福島県南相馬市	株式会社テラ・ラボ
福島県福島市	特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

<顕彰式（令和4年3月13日）> <「新しい東北」事例集>
顕彰状の授与 令和2年度受賞者の取組



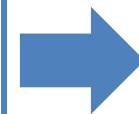
車座での意見交換



概要

- 「新しい東北」の創造に関心のある方の交流、情報発信、東北のファンづくり、さらには全国的に多発している災害に対して、東北で乗り越え新たにつくられてきた防災や減災、復興の経験値を共有し、関係を強化することを目的とした、ワークショップを年間計11回（特別編2回含む）開催。
- 被災地への移住を促進するため、被災地の魅力や課題などの実情を共有しつつ、今後の地域の活性化に向けて必要な取り組み、移住者が貢献できる分野や必要とする支援などについて議論する「東北暮らし発見塾」ワークショップを1回実施。

- 1 : 被災地のNPO、企業、自治体等から「新しい東北」に取り組む登壇者を選定し、ワークショップ実施効果の高い他地域の登壇者をキャスティング
- 2 : 全国から多様な属性を持つ参加者を募り、オンライン上でワークショップを開催
- 3 : ホームページやSNS等を通じて、登壇者の取組や事業成果を情報発信



- 登壇者からの取組紹介、質疑応答、アイデア出し、登壇者等との交流を通じて、参加者の東北・「新しい東北」に対する関心・共感を促進（のべ425名が参加※）
- 登壇者間・参加者・事務局との新たなつながりを活かして取組を促進、被災地内外へ防災や減災・復興創生の経験知の展開

【実施例】



オンラインでワークショップを開催



ホームページやSNS等を活用した情報発信
(ワークショップの参加募集や実施報告を掲載)

● 分科会の活動

地域づくりネットワーク

- 地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対し伴走型の支援を行う「地域づくりハンズオン支援事業」を実施。
- 「被災地内外との緩やかなつながりの構築」や「取組主体がより自主・自律的に行動し、新たな活動の展開ができるようになること」に重点を置いた支援を行い、地域課題解決に向けた取組の継続的実践・自走化を目指す。
- 令和3年度は、3つの支援対象団体へ、年間を通じた伴走型支援を実施。また、他地域の取組の視察や意見交換から学びを得るブラッシュアップ会、各団体の取組等を共有する成果共有会を実施。

令和3年度支援対象団体

団体名	プロジェクト名
一般社団法人たまご村 (岩手県陸前高田市)	「共に叶える、暮らし方。働き方。」をコンセプトにした 新しい商店街の基盤構築事業
一般社団法人日本カーシェアリング協会 (宮城県石巻市)	災害時に車の支援を行う連携構築事業 (モビリティ・レジリエンス・アライアンス)
一般社団法人tenten (福島県福島市)	移住・転入女性が地域とつながり活躍できる環境づくりの拡大発展と 自走モデル構築プロジェクト

● ブラッシュアップ会

各団体において参考としうる取組を行う他地域の団体との意見交換や視察を通じ学びを得るプログラムを実施

一般社団法人たまご村：全国各地の有志とつながるコミュニティ形成、地域内のつながり・担い手づくり等の取組に関し秋田県五城目町視察

一般社団法人日本カーシェアリング協会： 災害時の子どもの支援に向け平時から体制づくりを行うNPO法人力タリバと意見交換

一般社団法人tenten：地方で特色ある取組を行い全国展開も進める株式会社ママスキー（富山県）、コミュニティナースカンパニー株式会社（島根県雲南市）と意見交換

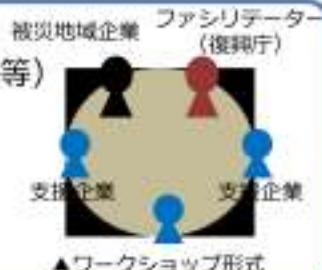
● 分科会の活動

企業連携グループ

□ 地域復興マッチング「結の場」

○ 被災地域企業が抱える多様な経営課題の解決を図るために、支援提案企業が自らの経営資源（技術・情報・販路等）を幅広く提供しながら、マッチングを目的とした対話の場を実施。昨年度と同様にオンラインで実施

- ・令和3年 11月11日 福島県福島市（被災地域企業13社・支援提案企業34社）
- ・令和3年 11月18日 岩手県釜石市（被災地域企業19社・支援提案企業36社）
- ・令和3年 11月25日 宮城県石巻市（被災地域企業15社・支援提案企業34社）



□ 新ハンズオン支援事業

○ 被災地域における産業・生業の再生や中長期的な課題解決につながるハンズオン支援

・ グループ支援 4件

被災地域における新産業の創出につながる新たな事業（新商品開発、販路拡大等）を対象にその事業化に向け、復興庁職員が民間の知見を活用しつつハンズオン支援を実施。

- ①久慈広域観光協議会・陸前高田観光物産協会・花巻温泉株式会社
- ②三陸サーモン養殖バレー協議会 ③ワラサクラブ ④福島発イノベーション創造企業連合

・ 個社支援 33件

被災地域企業の抱える販路拡大や新商品開発、生産性向上といった課題に応じて専門家を派遣しその解決に向けて取り組む事業



▲ WEBを活用した人材採用支援（グループ支援）



▲ 水産加工業者の情報発信支援（個社支援）

□ 事例集作成による情報発信(産業復興事例集)

○ 岩手・宮城・福島の3県の企業や団体が、業種や地域の特性、培ってきた知見や創意工夫を活用した「挑戦」を紹介。令和3年度は30事業者（岩手県7・宮城県7・福島県16）に取材を行い、事例集として編さんして 各企業の産業復興事例を共有した。



第二章、始動
～ニッポンの次世代モデルを目指す～
岩手・宮城・福島の
産業復興事例集30
2021-2022

□ ビジネス創業支援事業

○ 被災地における産業復興や地域振興に資するビジネスプランを優良提案として選定し、事業の発展に向けた支援（広報支援、ビジネスマッチング、イベント招待）を実施。

【優良提案】一粒のくるみから東北の復興へ…埋もれた資源和ぐるみを余すところなく活用し新たな産業づくり…
(一般社団法人SAVE IWATE/岩手県盛岡市)



●協議会の現状

会員団体の構成

総会員数は、昨年度と比較して、ほぼ横ばい。また、被災3県内の会員数が総会員数の過半数を占めている。

(1) 会員団体の属性

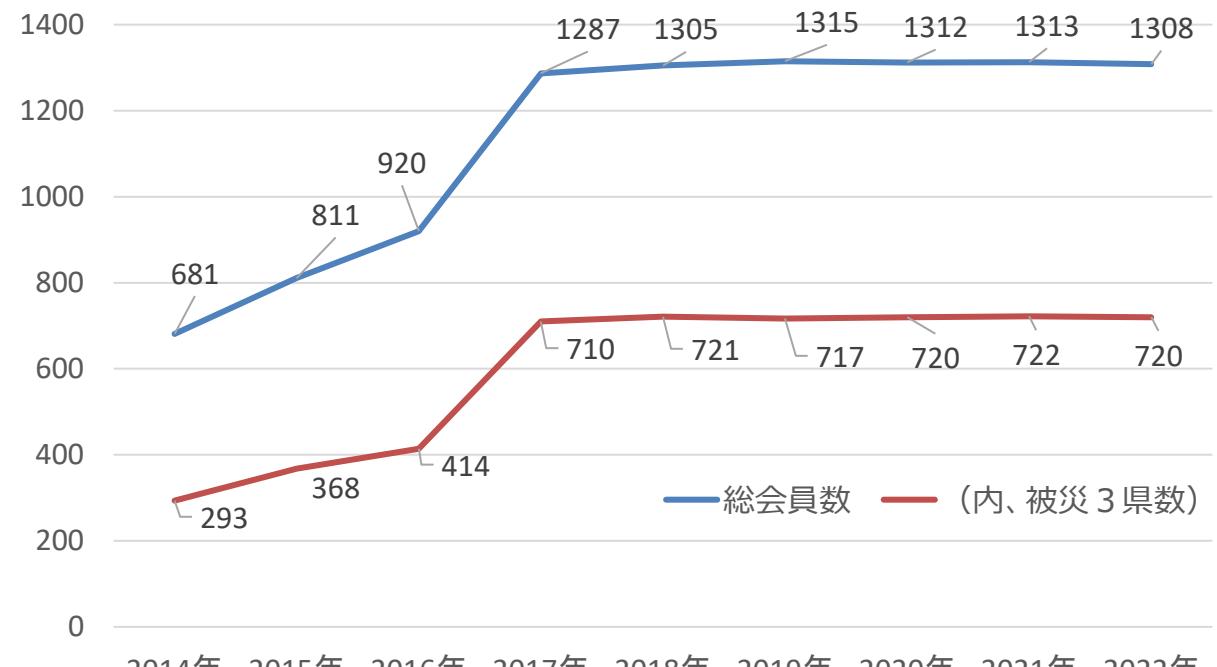
※令和4年3月23日時点

カテゴリ	団体数	割合
代表・副代表	21	2%
経済団体	85	6%
民間企業	408	31%
各種協同組合等	61	5%
NPO法人	52	4%
公益法人等	128	10%
独立行政法人等	19	1%
大学等	113	9%
先導モデル事業	226	17%
地方自治体等（都道府県）	37	3%
地方自治体等（市町村）	134	10%
府省庁	24	2%
合計	1308	100%

【被災3県内の団体の割合】

所在地（県）	団体数	割合
被災3県合計	720	55%
岩手県	134	10%
宮城県	338	26%
福島県	248	19%
被災3県以外	588	45%
合計	1308	100%

(2) 会員数の推移



※各年3月31日時点

※2022年のみ、3月23日時点の数値

● ポータルサイトを通じた情報発信

ウェブサイトの活用

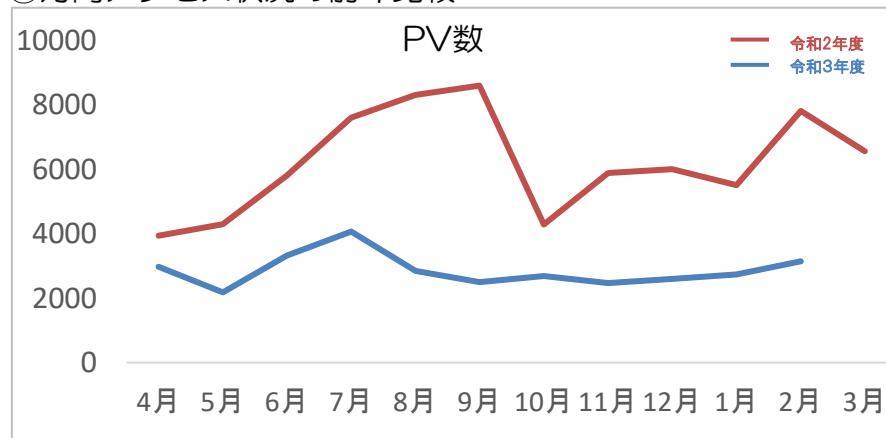
今年度は、昨年度と比べポータルサイトのPV数、ユーザー数は共に減少傾向にある。

○ アクセス管理状況等からの活用状況

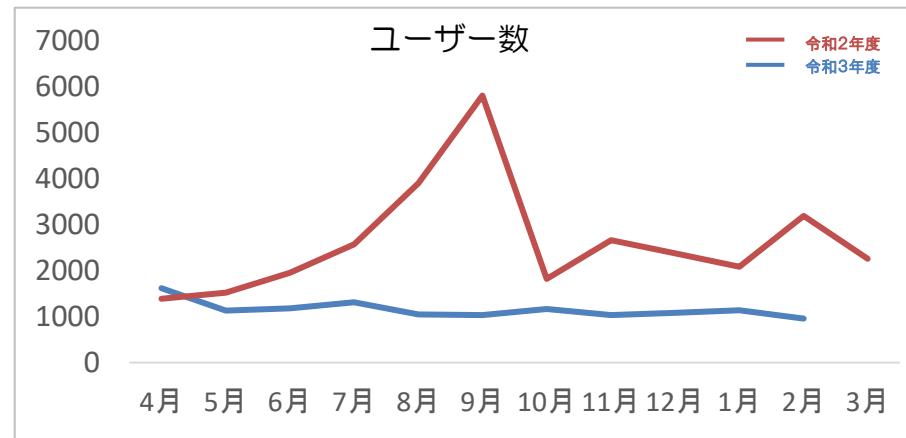
- ・令和4年2月までのWEBサイトアクセス情報
- ①月別アクセスサマリ

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
セッション	1,744	1,217	1,272	1,426	1,127	1,111	1,236	1,114	1,177	1,218	1,041
ユーザー数	1,614	1,130	1,179	1,310	1,043	1,030	1,166	1,034	1,078	1,136	954
PV数	2,978	2,184	3,326	4,071	2,846	2,494	2,689	2,465	2,594	2,738	3,145
PV/セッション	1.71	1.79	2.61	2.85	2.53	2.24	2.18	2.21	2.20	2.25	3.02
平均セッション時間	1:07	1:08	1:12	1:16	1:06	1:16	1:19	1:08	1:29	1:10	0:58
直帰率	57.2%	64.4%	58.5%	56.0%	62.0%	68.3%	66.3%	66.3%	66.3%	64.5%	62.1%
新規セッション率	89.3%	89.4%	90.3%	91.3%	88.0%	84.8%	88.7%	86.6%	92.0%	86.8%	86.6%

②月間アクセス状況の前年比較



令和2年度 合計 68,050
令和3年度 合計 31,530 (2/28時点)



令和2年度 合計 29,251
令和3年度 合計 12,674 (2/28時点)

● 令和4年度 活動の方向性

- ✓ 3県での意見交換会等について、継続実施
- ✓ Fw: 東北 Fan Meetingの枠組を活用して、被災自治体の首長自らが登壇し、**移住等の促進**に向けた“まち”のトップセールスを行う「東北暮らし発見塾」を開催
- ✓ **産業復興事例集**を原則WEB化、内容を分割して公開するなど見やすさも改善し、被災地における**産業・生業の再生**に向けた手引きとしてブラッシュアップ
- ✓ 地域や事業者の復興状況に応じて、専門家等を活用しながら、経営課題の改善を支援する「**新ハンズオン支援事業**」では、特に観光や水産等の業種に対する支援を強化。また、ベンチャー企業等による被災地への**拠点設置**を目的に、イノベーション創出型「**結の場**」により次世代産業をテーマとした技術マッチングを実施